OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成２３年９月（2011年）No.５４９

例会でブルーレイやＳＤカードも上映ＯＫ
～時代に対応してテープのほかにも対応～

今まで例会に持参していただく作品は、ミニＤＶテープに限定し、もしもそれ以外のものを再生するときは、自分で再生装置を持ち込む必要がありましたが、市販のビデオカメラがテープ式以外のものにほとんど変わってしまった現状では、新しい時代に対応していかないと不便になる方が増えてくるのでは、と一部幹事の方々が心配、関世話役がブルーレイ、ＳＤカード等もできるように準備して頂きました。ＯＶＣと共用になりますので費用は凡そ２万円弱ですみました。以下関 氏のコメントです。

（合原）

例会作品映写の新しいシステムについて

現在市販のビデオカメラのファイル形式はほとんどＡＶＣＨＤ、つまり撮った映像を記録する場所がハードディスクかメモリーカードです。テープに記録するＨＤＶカメラは全メーカーで１～２機種。電気店やカメラ屋さんには置いてない所もあります。近い将来、テープ式カメラの生産はなくなるかもわかりません。

いま皆さんの大半の方は、撮影はＡＶＣＨＤカメラ。それをパソコンで編集し、終った作品はＨＤＶカメラでテープに書き戻して例会に持ってきておられますが、もしＨＤＶカメラが故障した場合、修理に出すと、二年前のほぼ倍以上の修理費を取られます。かと言ってＨＤＶカメラの新品は機種も少なく、すぐ手に入るとは限りません。

そこでＯＭＣでは、ブルーレイ、ＤＶＤ、それにＳＤカードでも再生できるシステムを導入しました。もちろんテープ作品も今までどおりです。

今後例会で映せる方式は、テープ、ブルーレイ、ＤＶＤ、ＳＤカード、となります。

これらの方式でますます良い作品を作って頂くことを期待しています。

９月例会のお知らせ

９月例会日２４日（第４土曜）の午後６時より、いつものＪＲ難波駅上４階難波市民学習センターにて開催します。季節も良くどうぞ月１回の例会を楽しみにご来場ください。作品の方もよろしく。

大阪アマチュア映像祭は
１０月２３日（日曜日）

第１５回大阪アマチュア映像祭は。10月23日（日曜日）12時30分開場、13時開演と決まりました。会場はいつもの大阪市立中央図書館５階です。当ＯＭＣからは、合原会長の「あれから、４０年」、関さんのドラマ「赤いコート」、森口さんの「鯖街道の名水」、そして江村さんの「うだつの阿波おどり」が出品されています。

大阪アマチュア映像連盟は９クラブが参加しており、毎年秋に大阪市立図書館フェスティバルに協賛という形で開催されているものです。ぜひお誘い合わせの上ご来場下さい。プログラムは９月例会でお渡しします。

■ＯＭＣ映像フェスティバル、観客動員にご協力ください。

プログラムはこのニュースと共に同封いたしますが、足りない方はどうぞ会長までご連絡ください。当日の観客動員の方、どうぞよろしくお願いいたします。

８月例会のレポート

残暑厳しい８月例会は２７日午後６時より開催、外に比べ会場内はほどよい冷気で楽しいひちときを過ごしました。今月の司会は有村さん、書記、関さん、機材担当、井上、江村の両氏、受付は紙本、宮井の両氏の担当で進行。時間一杯の盛会でした。

■出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、上総、紙本、蟹江、合原、進藤、関、高瀬、玉井、西村、華岡、舩橋、前田、宮井、森下、森田、山本、吉岡、渡辺の２３氏

■上映作品（今月の講評は関世話役）

１．Helsinkiの街角で　ＳＤ
上総修一郎さん　　４分５８秒

ビルの構造や飾り、看板、広告塔など、さりげない物をさり気なく撮っておられます。普通、外国旅行に出てこんな物体を撮る人はほとんどいません。もしツアーのよなグループだったら“あの人なんであんなもの撮ってるんだろう”と思われたでしょうね。一見他人からは無駄に見えるものですが、作者はちゃんと計算ずくでした。それらを巧みに切り取って内容を盛り上げています。北欧の街にタンゴが流れています。最初はミスマッチに聞こえましたが、慣れてくると何となく画面にリズム感をもたせる効果が加わっていたように思いました。それにしても映像感覚のお若いのには驚きです。

２、おこない　ＳＤ
玉井 匂　　１３分４５秒

意味は何々をする、ふるまう、人の行状、などですが、ここでは神々に五穀豊穣を願う行事だそうです。杵と五本の搗き棒で餅をねり、座敷の鴨居に塗り付けるのは、その形で今年の収穫を占う「おこない」なのか、不思議そうに傍らで見つめる少女の顔が印象的でした。湖北地方の、ひと山越えた奥地。雪深い山里に根付いた伝統行事は深夜から早朝にかけて行なわれます。村人たちは、餅花、熨斗餅の桶を頭に乗せ、丸太のような縄で大きな菰袋を担ぎ、松明をかざしながら神社へ向かいます。神社の手前で隣村の衆と出合うと争いの仕草。そのどれもが何百年ものあいだ長老から若衆へ、そしてその子へと、口伝えに引き継がれてきた「おこない」のかたちなのでしょう。本来「おこない」には「なぜ」がつきものですが、伝承という時間のなかで「なぜ」が次第に薄れ、「おこない」に主きを置く“かたち”だけが綿々と受け継がれてきたこと。作者はそれを言いたかったのだと思います。聞けば二年がかりの作品だそうで、雪が降るなかの取材はご苦労があったと想像できます。

３、あじさい曼荼羅園　Ｗ
岡本至弘さん　　９分０５秒

雨の日、作者はモデルさんを伴って救馬観音境内のあじさい園を訪れました。あじさいはちょうど見頃で園内のどこも美しく咲き誇っていました。雨にあじさいは似合います。そして、あじさいとモデルさんもよく似合ってました。ただし、モデルさんを使う場合はもうすこし演出が必要です。

４、長刀鉾巡行　　ＨＤ
前田茂夫さん　　６分３３秒

稚児のしめ縄切りから始まります。真正面のすごい映像ですが、ズームで引くと四

条通りの歩道上からと判りました。人がいっぱいで三脚は立てられない。しかし全くブレていない。いったいどういう撮り方をされたのでしょうか。御池通りは有料観覧席。長刀鉾だけを撮るために料金を払ったようなものです。そして辻まわしの迫力もばっちり。６分半の作品ですが、長刀鉾の特徴がみごとに描写されていました。鉾の先端についている長刀の刃の方向が八坂神社や御所に向けられることはないそうです。ロの字形の巡行でそれが可能なのか不思議ですね。

５、春 よさこい　ＨＤ

江村一郎さん　　６分１０秒

夜間のフラッシュはビデオ撮影にとっては大敵ですが、それを逆手に利用しているのはさすがです。時折ピカピカ光る暗やみをバックにタイトルが出てきます。突然右手から強烈なライト。三翠園の長い白壁が浮かび上がり、ライトに照らされた観客の顔。これらの映像の切り取りは作者ならではで、じつに巧いです。照明が順光になり踊り手を正面から捉えます。いつものよさこいと少し雰囲気が違うのは、白壁の坂道と背後の樹木のせいでしょうか。場面が昼間に変わって、はりまや橋と帯屋町。作者の作品にはお馴染みの場所です。しかしここでは踊り手より観客のさまざまな様子が映し出されます。よさこいの連作にまた新しい表現方法が加わりました。

６、開門神事　ＨＤ

吉岡貞夫さん　　１３分２５秒

３月例会で「開門神事を支える裏方さん」が紹介されました。それはそれで立派な作品だったのですが、どこかが違うとの声があり、一度は単に「裏方さん」と題名を変更されました。しかしラストはやはり駈ける群衆の迫力が不可欠という意見で再々編集され、どうやらこれに決まりそうですが、この作品にかなり力を注いでおられるようで、いまなお検討中だそうです。できるだけ良い作品にしたいと、ベテランでありながら他人の意見を素直に受け入れる謙虚な姿勢に頭が下がります。私などは自分の意志で手直しするこはあっても、他人からの指摘に応じることは殆どありません。見習うべきですね。

７、白浜雨情撮影会　ＨＤ

合原一夫さん　　１１分２０秒

季節はずれの台風のおかげでメインの砂の彫刻がお流れになった撮影会でしたが、現地クラブの会長さんはじめ多くの方々にお世話いただき、また岡本幹事の努力もあって無事に終えることができました。この作品は、ロケハンのときの映像と雨の撮影会二日間の模様をうまく組合せてあります。しかし完成していたにもかかわらずコンテスト当日は持参するのを忘れてしまったとか。上位入賞は間違いなかったはずですが、残念でした。

８、フェリーの旅　ＨＤ

山本正夢さん　　１１分２０秒

まず大阪南港からパン・スターフェリーで釜山へ１８時間。乗客は２０人ほど。それでも夕食のバイキングの品数はけっこう揃っていて、演奏や踊りのアトラクションもありました。釜山に着いたらいきなりソウルの東大門が出て、その間は省略。仁川から１０時間かけて中国の大連へ。ロシア人街が１カットあって次は青島まで７時間。そして最後は青島から下関まで３８時間。合計７３時間の船旅です。ツアー会社の、決められたコースを巡る旅に作者が参加されることはほとんど無いと思いますが、これはフェリーを乗り継いで帰ってくるだけで、旅行の目的がよく判りません。フェリーに乗るのが目的だとしたらマニアにもいろいろある。と言うことでしょうか。しかし、ここではフェリーの映像ばかり集めて奇をてらったことも考えられ、実際は他の風物も撮っておられると思います。とくに陸上を行く釜山－ソウル－仁川は距離も時間もかなりあり、この間なにも撮ってないとは考えられません、今後その作品が出てくるのを期待しましょう。

９、白老ポロトコタン　　ＨＤ

蟹江利一さん　　９分５５秒

登別の北およそ２０キロのところにあるアイヌ民族博物館です。その敷地内のチセと呼ぶ古民家の中で、アイヌの生活や風習の紹介と古式舞踏、ムックリ（口琴）、イオマンテ踊りなどの実演があり、観光バス

が必ず立ち寄る定番の観光施設です。私も数年前に行きましたが、毎日何度も同じ行動を繰り返すことの惰性なのか、いかにも作り笑いで心から歓待している態度には見えませんでした。どこか味気なく、流れ作業で客が仕分けられているようで良い印象はもっていません。しかしこの映像を拝見すると、私たちのときより客に対する教育が成されているような気がしました。まあ一度見たらもう充分というような見せ物です。

10、夏、六甲山へ　ＨＤ

有村　博さん　　９分０６秒

ご夫婦で有馬温泉に一泊して翌朝ロープウエーで六甲山へ。六甲山は稜線に沿って道路が整備され、別荘や企業の保養施設などが建ち並ぶリゾート地です。お二人は山頂駅からほど近い六甲ガーデンテラスに向かわれました。以前は十国展望台があった場所に、今は現代アートを思わす「六甲枝垂れ」と名付けた建造物があります。天然記念物として各地に存在する枝垂れ桜の巨木をイメージしたものでしょうか。六角の編目の金網を巨大化、且つ複雑化したようなオブジェでふんわりと全体を覆い、芯になる構造物は総ヒノキ造りで、その内部は円筒形の大きな空間になっています。ゆったりとくつろげそうな広さでした。円筒の周りは回廊で、そこから大阪湾が一望できます。見晴らしのテラスで昼食をすませたお二人は高山植物円へ。いろいろな花のアップと共に、もう登ることはないであろう過去に登った山々の名が、それを懐かしむようにナレーションに出てきました。ラストは六甲山ケーブルで下山。有意義な小旅行だったようです。

11、川面に涼を求めて　ＨＤ

進藤信男さん　　１０分

夏の箕面は川床が出たりして、結構賑わっているんですね。「川には絶対に降りないでください」とどこかに書いてあった気がしますが子供は無邪気です。人力車が置いてありました。いま観光地で流行りですが、瀧道をお客を乗せて走るのは無理でしょう。単にお店の飾りかな？。流りと言えばキャンドルロード。灯火祭と名付けて各観光地で流行っています。箕面ではサマーフェスタと言うそうですが、キャンドルを始めたのはいつごろからでしょうか。瀧のライトアップは涼味満点です。もみじの季節しか知らない私ですが、来年はぜひ行ってみたいですね。

12、どろんこ祭　ＨＤ

紙本　勝さん　　１３分２０秒

いまどき農耕に牛を使う農家は皆無と言ってもいいでしょう。祭で駆り集めたのはなんと食肉用の黒毛和牛。どおりで、まるまると肥えた重量感のある牛だと思いました。牛舎からめったに出たことのない七頭の牛が田圃の中で規則正しく横一列で代かきの行動をする姿は感動ものでした。形どおり早乙女たちの踊りと田植えの仕草があり、太鼓を鳴らして田の神様にお供え物をする「さんばい降し」の行事からマトモではなくなってきます。天狗の面を着けた大番というピエロ役が太鼓を打つ人たちを次々に突き落とし自らも泥まみれに。そのあと四人の豆まきが田圃の中で大乱闘を演じる風変わりな祭りです。インターネットで情報を得たと言われますが、場所は四国愛媛県の山奥。簡単に行ける所ではありません。強い意志。並はずれた好奇心、取材することへの執着、そして鍛え上げた体力と脚力。やっぱり作者はスーパーマンです。

13、烏丸半島のハス　　ＨＤ

高橋辰雄さん　　７分２０秒

琵琶湖大橋の近く、草津市にある蓮の群生地。訪ねる人も多いのか熱気球が揚がり、作者もそれに乗って俯瞰撮影をされましたが、残念ながら１３ヘクタールもある群生地は広すぎてフレームに納まり切れていません。今度は舟で巡ります。これで広さが実感出来ました。そのあと小舟で群生するハスの中に分け入ります。蓮は仏教浄土に咲く花。湖面を渡る爽やかな風の音に声明を聴く。ということで花の咲くなかを声明が流れ、見るものを極楽浄土に導いていきます。作者の想いに触れたような気がしました。

このあと舩橋さんと宮井さんの作品が続くはずでしたが、時間切れで翌月回しになりました。